

実習内容
ならびに
スケジュール

感染制御部

曜日	内容	担当	集合時間	集合場所
月				
火				
水	ICUカンファレンス 感染症・ワクチン、抗菌薬の講義、ディスカッション 昼食 回診・症例提示 感染症診断講義・感染対策実習	中嶋・植田 中嶋・大谷 中嶋・植田 中嶋	8:55 10:00 14:00 15:30	急性期センター・ICU前 1号館5階・感染制御部 1号館5階・感染制御部 1号館5階・感染制御部
木				
金				

◎ 診療科名： 感染制御部

◎ 責任者氏名： 中嶋 一彦 准教授

◎ 指導教員氏名： 中嶋 一彦 准教授

◎ 実習概要

1.ICUでの抗菌薬カンファレンス、2.病棟回診、3.クルズス、4.感染制御の実際の見学、5.グラム染色、培養検査データ、血液検査データ、画像所見の読み方、抗菌薬選択の実際のディスカッションなどを行い、感染症領域において的確な診断と治療方針の理解と立案を目指す。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

- ・ 感染性疾患を有する患者の病態について理解している。
- ・ グラム染色により予測される病原菌を想定できる。
- ・ 想定される感染症に応じた検査の選択ができる。
- ・ 感染症に関連する基本的な検査データを正しく解釈できる。
- ・ 抗菌薬の TDM の原理と利用方法、目標値を理解している。
- ・ 病態、原因菌、抗菌薬の特性に応じた抗菌薬選択ができる。
- ・ 微生物に応じた伝播様式と、感染対策を行うことができる。

◎ 準備学修ならびに事後学修に要する時間

- ・ 耐性菌、抗菌薬の種類、特性について講義テキスト、成書を読んてくること。
（1 日程度）

◎ 評価方法

(知識、技術、態度についてS、A、B、Cで評価。評価基準をルーブリックで明示)。

	S	A	B	C
知識	感染症の病態、検査、治療を十分に理解し、診断治療までの方策を自分で立案することができる。	感染症の病態、検査、治療について最低限の理解が得られている。	感染症の病態、検査、治療について理解が不十分であり、実臨床でも錯誤を来すおそれのある状態。	クルズスなどで得た病態、検査法、治療に関しても知識を理解できておらず、レポートなどでも理解への取り組みがみられない。
	レポート等で理解が行われていることが示されている。	診断治療までの方策を自分で立案することはできないが、教員のサポートによりこれらが行うことができる。	レポートにても感染症の病態、治療への理解の誤りが著しい。	レポートを提出しない。
	他者への解説、指導ができる。	レポート等で理解する努力が行われている。	レポート等で理解する努力が行われていない	
技術	PPE 着脱など感染対策が他者に指導ができる。	PPE 着脱など感染対策が正しく実施できる。	PPE 着脱など感染対策に一部誤りがある。	PPE 着脱など感染対策ができない。
態度	自ら質問や疑問点を見だし、それらに対し積極的な問題解決を行う。	提示された疑問点や質問に対しては積極的な問題解決を行う。	受け身的な学習態度であり、質問や疑問点にも積極的な問題解決を行わない。	居眠りや、質問へ返答しないなど学習への取り組み態度が不良である。

◎ パフォーマンス評価

実習中以下の評価を行う。

クルズス、回診の際、適宜質問を行い感染症に関する知識の確認、理解度をはかる。
症例レポートによる担当患者の病態、検査法、治療についての理解度をはかる。

◎ 中間評価とフィードバック

実施しない。

◎ 注意事項

- 8時55分に急性期医療センター3階ICU前に集合すること。(時間厳守)
- レポートは手書きにて作成し、提出は実習終了後1週間以内に1号館5階感染制御部に提出すること。レポートは担当症例における感染症の病態、治療法などについて成書、ガイドライン、文献を参考にして作成すること。
- 13Gグループ
11月20日(水)9:00集合→11月19日(火)9:00集合に変更します。